

BFSニュースレター

発行者 びとファイナンシャルサービス株式会社 (BFS)

2009年9月1日発行

Vol. 4, 第4号

このニュースレターの主な掲載情報：

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

金融機関が勧める金融商品と真に必要な金融商品

1. 金融機関が勧める商品とそのマイナス点は：

金融機関が売りたい商品は、自分たちに利益の多い商品です。そのためには、手数料が高いか、話題性があり売りやすい商品です。

こうして、次から次と新しい商品を、投資信託・外債・変額年金保険など手を変え品を変えキャンペーン的に勧めていきます。ここで利用者にとって問題は、手数料について金融機関と利用者には相反する利害関係があり、一方(金融機関)の儲けが多ければ一方(利用者)の儲けは少ない・運用成績にマイナスになるといことです。

さらに問題は、次から次へと新しい商品が出てくるため、前の商品の運用がおろそかになりがちになり、さらに前の商品は勧めないため残高はジリ貧になり、運用成績にもマイナスに働くといことです。

2. 利用者に真に必要な商品とサービスは：

利用者に必要な商品は、金融機関にとって儲けの少ない商品です。そしてここで大事なこと



は、金融機関にとって儲けの少ない商品は、利用者に勧めないといことです。そのため利用者には本当によい商品は見えません。

そこで、私どもBFSの役割が大事になってきます。BFSは金融機関とは完全に独立してお客様利益を最優先しますので、お客様にとって最もよい商品を選び出してお勧めします。

また、後のケアがおろそかになり、だんだんと残高が減っていく商品はお勧めしないで、運用成績のマイナスにならない着実に残高が増えていく商品をお勧めします。

さらにポイントは、BFSのサービスを利用していることを金融機関が知ると、不思議と勧誘セールスの電話が来なくなります。勧めても動かないと踏んでいるからでしょう。

知っておくと安心な「高額療養費」

重い病気などで病院に長期入院したり、治療が長引く場合には、医療費の自己負担額が高額になることがあります。

そのとき、ぜひ知っておくと安心できる制度が国の「高額療養費制度」です。

この制度は民間企業の健康保険や国民健康保険の被保険者や被扶養者に、同じ月に同じ医療機関に支払った自己負担額を世帯単位で合算し、一定限度額を超えた場合に払い戻される制度です。

一般的には(被保険者の標準報酬月額53万円未満、70歳未満)月当たり自己負担限度額が8万数千円を超える場合に、それを超える額は払い戻されます。



これによりまして、差額ベット費、食事費、先進医療技術部分などは対象外ですが、いくら療養費がかかっても自己負担限度額を超える部分は支払う必要がなくなります。

地方自治体や保険種類によっては、さらに療養費を軽減する制度もあります。

今月の言葉：

人間の幸福とは、時たま起こるすばらしい幸運より、日々起ってくる小さな便宜から生まれるものである。たとえば、貧しい青年に自分で顔をそり、かみそりを整頓しておくことを教えてやるのは、1000ギニーを恵んでやるよりも、その男の生涯の幸福に寄与することが大きいであろう。

(フランクリン自伝より)



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通して、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとファイナンシャルサービス株式会社 (BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒164-0003

東京都中野区東中野4-7-18

岡藤ビル303号

電話：03-5338-9733

携帯：090-4934-3121

FAX：03-5338-9734

電子メール：info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを BFSの大切な役割

私の健康法その4.

その1- 飲酒は一日おき

3年以上、飲酒は一日おきにしています。休肝日を週一回は持つようによく言われますが、私はわかりやすいようにこうしています。一日おきは、外での付き合いも自宅でのたしなみも一緒に計算しています。こうしますともう慣れてきまして、かえてお酒をおいしくいただけます。

もうひとついいのは、家計にも負担が減ることですね。体にどう効果が出ているのかよくわかりませんが、よいことだろうと思って続けています。

その2- 年に一度の人間ドック

毎年この時期になると、半日人間ドックに行っています。もう10年くらいになりますので、データが蓄積されていて、健康状態の傾向を見るにもいいようです。

さらに今年も、自己負担で6万円以上払っていた人間ドックから、国民健



康保険の自治体の人間ドックに変えました。がん検診などほぼ同じ内容の検査をなんと2000円以下でやってくれるのです。

その3- 帰宅時のうがいと手洗い、鼻洗浄

うがいは外出から戻るとかならずしています。口の中がすっきりして気持ちいいです。



近代以降寿命が爆発的に延びたのは、助産婦が手洗いをするようになり、新生児の死亡率が急激に減ったからといわれています。

鼻洗浄は、タクシー運転手から教わりました。もう20年近く続けていますが、いいことを教わったと思っています。何回か鼻の中につーんと感じる程度まで水を吸い、ぷっと吹き出します。